

19世紀アメリカ合衆国の学校建築形成における 建築家と教育行政家

—公教育制度形成の一側面、教育空間標準化とS・スローン—

鈴木 清 稔

要約

近代公教育の形成には、その過程において学校制度を支える道具立てが様々必要であった。学校普及を推進する手段として、学校や教室の標準的な設置・設営の目安も必要とされた。アメリカ合衆国において、学校の建築仕様書を作成する動きは19世紀中期ごろからおこったが、その過程で、建築家と教育関係者（教育実践家や教育行政家）が関わり、「学校建築」という分野が形成されていった。

とはいえ、この両者の関係・関わりは、実際には単純な協力関係にあったと言いきれない。そこには、緊張関係も葛藤もあり得た。そうした状況を本論文では、ペンシルベニア州の校舎の建築仕様書を編集した、かつての州教育長バロウズと、校舎デザインを任された建築家スローンの関係に、立場の違う両者がどのように関わったか、具体的に見ていく。

バロウズは当時の学校教育に詳しく、スローンは一世を風靡した建築家であった。それゆえに両者が学校校舎の建築仕様書作成の任に当たったと考えられる。しかし、19世紀半ばに建築仕様として最も参考にされたと言われるバーナードの『学校建築』を支持するバロウズには、スローンの案は不満な点が多かった。バロウズはスローンの案と建築仕様に、編集過程で反対意見を追加したり、欠点を指摘したりした。

立案者と編者の間の、こうした齟齬は、単なる個人的な不和から来るものではなく、教育関係者と建築家の、学校建築に対する姿勢や求めるものの違いに起因すると考える。

キーワード

学校建築、スローン、バーナード、公教育形成

1. 問題設定
2. 建築家と「空間構成の影響力」
3. 建築家サミュエル・スローンと学校建築
4. スローンのフィラデルフィア・プラン
5. 建築家と教育行政家

1. 問題設定

本論文は、19世紀アメリカ合衆国における公教育形成の歴史像を明らかにする研究の一環である。公教育の形成（＝公的な行政権による学校制度の成立・普及）は、子どもを「教育」という行為を正当化する理念・理論の確立と、それらの社会一般における受容といった理念的なものや、教育分野への税金支出といった財政的側面の充足・拡充だけでは成し遂げられない。教員の養成と供給という人的側面や、校舎の建設、教室内の設備・備品の配置といったより物質的・具体的な道具立ての整備拡充も必要である。

本論文は、学校制度の成立・普及における物質的な道具立てである、校舎と教室アレンジメントの標準化と、標準化に携わった教育行政関係者と建築家との関わりに焦点を当てたものである。校舎の建築や教室アレンジメントについて、プラン・ブックが作成され、建築仕様書が作られていくことは、「学校」なる物を標準化することにつながる。各地の状況に合わせられるよう、いくつかのパターンを用意しつつも、「学校」というものに一定の標準化をもたらすことで、学校普及に大きな役割を果たすことになった。^{*1}

というのも、この標準化によって、学校設立に当たっての用地選定や建設費用の目安が付けやすくなったり、学校の設立準備に見通しが付けやすくなったりして、学校設立を唱道しやすくなるからである。^{*2}そして、それは、学校教育の規格化への一

*1 実際、後述するように、アメリカ合衆国において1830年代から50年代にかけて「学校」を語る著作のなかには、学校の絵や教室アレンジメントの図を含んだものが出版されるようになり、そうした著作は、建築の世界でいうプラン（＝設計図）・ブックやパターン（＝見本）・ブックとしての役割を果たしていった。

方法にもなりつつ、その一方で、人々に対して、〈学校とはこのようなものである〉という、「学校」というものの可視化を行うことで、普及を目指す「学校」の「あらまほしき」姿を打ち出す役割をも果たし得たのである。実際、1830年ごろから、学校の環境を論じた著作は、実在の学校の立地条件が悪かったり、教室が不衛生であったりする例が多いことを指摘し始めた。それだけに、著作で示される「学校」は、現実の姿とはかけ離れていることが多かった。しかし、だからこそ、「かくあるべし」というイメージと標準を提示することにもなった。

実際、19世紀アメリカ合衆国において教育行政家、教育ジャーナル編集者として公立学校制度普及に活躍したバーナード (Barnard, Henry 1811-1900) は、その著書『学校建築』において「全ての学校校舎は、共同体の全ての子ども身体的、知的、道徳的育成を祈念して捧げられた聖堂 (temple) でなければならぬ」と述べており、公立学校制度として唱道された理念としての「学校」イメージの可視化にも貢献したと言える [Barnard, 1970 (1848) : 55-56, Barnard, 1849: 41]。*³

* 2 ちなみに、欧米の近代教育導入期であった明治初期日本において、各県の学校建築や運営の指針 (=「学校建築法」、「学校建築心得」の類い) 作成時に参考とされ、影響があったと言われるのが、『学校通論』(J・P・ウィッカーシャム、箕作麟祥訳、1874)であった。同書は、*School Economy* (Wickersham, 1864) の1870年版の翻訳である [関川, 2000: 137-139]。

この『スクール・エコノミー』は、教室内の机の配置や備品入れなど、学校校舎のフロア・プランを、生徒48名収容の一教室学校 (one-room school) と同80名の一教室学校しか掲げておらず、より大きな学校については、当代の学校建築の諸著作にあたるよう指示した [Wickersham, 1867: 38]。

ウィッカーシャム (Wickersham, James Pyle 1825-1891) も、後述するバーナード (コネティカット州教育長) 同様、ペンシルベニア州教育長 (1866-1882) を務め、教育雑誌 (*Pennsylvania School Journal*) を編集した (1871-1881)。

* 3 バーナードは、コネティカット州初代教育長 (the Secretary of Connecticut Board of Commissioners of Common Schools, 1838-1842) となって以来、学校建築と校舎の改善について調査し、書き始めた。

彼の『学校建築』は、この調査と、それ以前、少なくとも1830年頃からの、アメリカ合衆国の教育実践家たちによる校舎デザインや教室アレンジメントの議論を集大成したものと考えられる。後述するように、彼の提案が広く知られるようになったのは、1850年の第2回「公教育支持者国民会議」(The National Convention of the Friends of Public Education) に学校建築のレポートを提出したことによる。彼の『学校建築』の詳細については、拙稿を参照のこと [鈴木 1999: 279-295]。

しかし、19世紀アメリカ合衆国において、^{スクール・アーキテクチャー}「学校建築」なるものが論じられ、校舎の標準化がなされていくにあたっては、教育実践家、教育行政家など学校教育の関係者だけではなく、建築家が関与していた。なぜならば、校舎は、授業などの教育が行われる実践の場であるとともに、学校家屋(スクール・ハウス)という、学生“生活”の場でもあり、住宅家屋(ハウス)を設計する建築家の関わる領域でもあったからである。

実際、公教育の形成期=公立学校の制度化が、建築家と教育実践家や教育行政家が出会う場となり、「学校建築」という分野が形作られた。それは、「学校」のパターン・ブックの成立をもたらし、「学校」を具体的なものとして流布可能ならしめた。つまり、学校が複製可能なものになったということである。加えて、それは州の教育行政当局による学校建築関連の規定や標準設計仕様の導入によって、教室アレンジメントの標準化が促進されることにもなった。

大まかな流れとしては、以上のように纏めることが出来るが、本論文では、このプロセスにおける、学校建築仕様書における建築家と教育行政家との関わりについて、具体例に基づいて考察することを目的としている。なぜならば、「建築」を巡っては、建築家と教育実践家の間に指向(ならびに志向)に違いがあり、しかも、学校教育普及に関わった教育行政家が、標準的建築仕様のとりまとめに関わったからである。

2. 建築家と「空間構成の影響力」

アーキテクチャーという言葉は、19世紀前半において単なる建物の建設や構築を意味する言葉ではなく、特別な意味を持って使われた言葉であった。O.E.D.には、この特別な意味の文献上の初出として、ラスキン(Ruskin, John 1819-1900)の言明が挙げられている。「architectureとは、人間によって建てられた構成物の光景が、人間の精神的な健康、力、喜びに貢献するよう、その構成物を配置し、装飾するアートである」(*The Seven Lamps of Architecture* 1849)。この言明に見られるように、アーキテクチャーは、単に建物をさすのではなく、それを見る者やその中にいる者に精神的な影響を与えるべき構築物を指し、さらにはそうした影響を与えることを意図して建造し、その内外を勘案・配置することを意味する言葉として使われたということである。

つまり、アーキテクチャーという言葉には、人間への「影響力」が意識的に込めら

れており、〈人間精神に作用する空間構成への企て〉と、そうした企てが込められた構築物を指す言葉であった。[田中 1997, 1999]*4

〈空間構成や構築物が人間精神に作用する〉という発想は、逆にその作用で〈人間に影響を与えよう〉という企図に転化しうる。また、その企図は、社会の改善に建築を役立てようという発想も生み出す。実際、公共建築物を社会の改善に役立て、社会の再形成に利用するという発想は、18世紀の最後の四半世紀に西ヨーロッパで生まれていた[鈴木 1999: 280]。アメリカ合衆国においても建国以来、共和国形成のために公共施設建設の時代に入っていた。そこでは、ギリシア、ローマが民主主義、共和制を象徴するとして、ギリシアやローマの建築をもとにした新古典様式、特にギリシア復興様式の建物が多く建てられた。

しかし、当時のアメリカ合衆国において、建築家の地位が確立していたわけではなかった。建築家を名乗るための明確な基準はなかったし、その養成プロセスも確立していなかった。独立期から1820年代頃まで、渡米した英仏の建築家に指導を受けたり、ともに仕事をすることで建築家になっていった。19世紀を通じて、誰でも建築家を自称できたとさえ言われる[Clark, Jr. 1986: 16]。*5ちなみに、「アメリカ建築家協会」(American Institute of Architecture)の設立は1857年であり、建築関係の定期刊行物の出版が始まるのは、1870年代以降だと言われる[Gebhard, 1977: 40, 294]。大学での建築家養成は19世紀半ば以降のことである。*6

つまり、連邦や州の議事堂など公共建築が、専門職として確立途上の建築家たちに設計されていくなかで、校舎という建物と「^{アーキテクチャー}建築」が、教育関係者と建築家が、そ

*4 ちなみに、1830年頃、校舎や教室の改善を教育関係者が論じ始めたとき、アーキテクチャーという言葉は使われず、コンストラクションやビルディングが使われていた[鈴木 1999: 279-280]。

*5 実際、1840年から1850年頃、ロードアイランド州で建築家として活躍したテフト(Teft, Thomas Alexander 1826-1859)は、学校も設計したが、学校の教師をした経歴を持っていた。このとき彼がバーナードの弟子(protege)であったという記述もある[Gebhard 1977: 116-7, 鈴木 1999: 283-284]。

*6 ただし、後述するように、スローンが1868年から1870年まで、建築関係の定期刊行物を編集、出版していた。これが最初の定期刊行物とも言われる[Bushong 2009]。

それぞれ出会うことになったと言える。「共和国」という理想を象徴した建物を建設するという建国以来の意図に加えて、19世紀に入って以降の経済的な拡張、都市の拡大、移民の流入、工業化の進展に伴って、公共的な施設の必要性が生じてきた。それは、「共和国」を支える市民の育成という必要性であった。そして、市民の育成のために、学校を普及し、子どもを教育するという方策が採られたわけであるが、その方策は、単に、学校という場所を用意することにとどまらなかった。教育実践家や教育行政関係者には、学校での教育活動を支える物理的な環境の「適正な設定」という企図が生じた。そして、建築家たちは、学校校舎という公共的な建物に「空間構成の企図」を反映させる機会を見いだしたということである。

たとえば、ブルフィンチ (Bulfinch, Charles 1763-1844) は、合衆国生まれで最初の建築家と言われるが、連邦議事堂やマサチューセッツ州議事堂の設計・建築に携わっただけではなかった。ボストンの集合住宅の設計を初めとしたボストンの住宅街及び港湾部の開発と建築計画に携わるほか、教会、裁判所、刑務所さらにボストン・第3ラテンスクールやフィリップス・アカデミーの校舎も設計したし、1816年までにボストンの多くの学校も設計した [鈴木 1999: 281-282]。*7

こうしたブルフィンチの業績に見られるような、公共的施設の建設から住宅の設計、住宅街の開発、学校校舎の設計にまで及ぶ幅広いジャンルにわたって仕事を行った点に、建築家たちが、不確かな地位からその地位を確立する途上で、「学校」という建物に関わっていく事情を見てとることが出来る。

独立期から1820年代までの^{アーキテクチャー}建築が、公共施設の建築に、公共秩序と公共道徳を具現化する環境作りを目指していたのに対して、1830年代以降、さらに社会の改善に貢献するという目的が加わった。社会の改善とは、当時の禁酒運動など、人々のモラルの向上を訴える形のモラル・リフォームという社会改革の動きであり、そうした動きへの「建築」による関与である。

つまり、彼らは、「人間に作用する空間構成の企て」(=^{アーキテクチャー}建築)を行う建築家として、

*7 彼は、ジェファソン (Jefferson, Thomas 1743-1826) の勧めで訪欧し、建築への目を開かれた。ちなみに、ジェファソンは、若い頃、建築書に没頭し、ヴァージニア大学の計画に古代ローマ風の様式を取り入れている。

「人格やモラルの形成」を意図する教育関係者の「教育空間の整序」という企てとその必要性に関わることになったということである。^{*8}

3. 建築家サミュエル・スローンと学校建築

そこで、ここでは、建築家の校舎の建築・設計との関わりについて、事例に則して見ていく。取り上げる建築家は、サミュエル・スローン (Sloan, Samuel 1815-84) である。その理由は、彼の構想した学校建築、特にそのフロア・プランはフィラデルフィア・プランと呼ばれ、評判となったが、彼のプランに関するエピソードは、学校建築における建築家と、教育実践家や教育行政家との関係の現実的な在りようを示すと考えられるからである。しかも、それはバーナードの『学校建築』の影響力を暗に示しているとも言えるであろう。

スローンは、ペンシルベニア州チェスター郡に生まれ育ち、1830年に大工兼家具職人に弟子入りをした。1833年頃までにフィラデルフィアに移り、大工兼建築業 (builder) として働いた。仕事の経験を積むにつれて、1850年までには建築家として自認するようになったと考えられる。

やがて、彼は、フィラデルフィアに拠点を置く建築家として全国的な名声を得ようになり、多くの住宅、教会、商業ビル、学校、病院の設計をするとともに、パターン・ブック (*The Model Architect* (1852-1853)、*City and Suburban Architecture* (1857-1858)) を出版した。また、アメリカ合衆国において、建築関係で最初の定期刊行物とされる『建築評論およびアメリカ建築業ジャーナル』 (*American Review and American Builder's Journal* (1868-1870)) の編集、出版を行った。彼のフィラデルフィア・プランによる学校は他の州でも多く作られた [Bushong 2009, Moss 2007, Splain 2015]。彼の主な経歴は、以上のようにまとめられる。

ペンシルベニアに限定しても、スローンは建築家として、学校や精神病院にも手腕を発揮した。特に、病院建築は、他の病院のモデルともなったが、学校についても

* 8 同時に、「人を産み育てる場」としての家庭生活や家庭教育が営まれる住宅の建築にも、建築家たちは関わっていった。この点については、拙稿参照のこと [鈴木 1999: 295-301]。

1851年から1859年の間に建てられたフィラデルフィアのほとんどの公立学校は、彼の事務所が引き受けたし、スローンはフィラデルフィアの師範学校の設計にも関わった [Cooledge, 1964: 153, Cooledge, Jr. 1986: 45, 47, Cutler 1989: 2-3, Bushung 2009, Moss 2017, Shelby 2015]。また、住宅家屋のデザインを1855年から1863年まで有名な女性雑誌 (*Godey's Lady's Book*) に発表した。

フィラデルフィア・プランが考案されるきっかけは、1851年にフィラデルフィア市がスローンに設計依頼をしたことにあった。彼の仕事は、バーナードら教育実践家や教育行政家の、教室アレンジメント論に始まる「学校建築」の議論や活動とは、関わりがなかったと考えられる。彼は、あらゆる形態のタウン・ハウスや商店、ロフトなども手がけた。それらは都市の建物だけに、敷地や予算などに制限を持っていた。とくに人口の多い都会に共通の制限は、敷地であり、狭い敷地は採光、換気、人の動線、火災時の避難などに問題を抱えていた。そして、これらの問題は、都市の学校校舎にとっても同様に解決すべき問題であった。^{*9}

スローンがこの仕事を始める少し前、1850年秋ごろ、フィラデルフィアでは、学校の過剰な生徒収容が問題となり、公立学校校舎の安全な標準的デザインが必要とされていた。折しも、ある学校で悲惨な火事が起こった（同年7月8日）。混み合った教室で火災が発生し、校舎のひどさが惨事を招いたと、なおさら論議を呼んだ。ちょうどこの火事の一週間前、市の公立学校監察官委員会 (the Board of the Contollers of the Public Schools for the City and County of Philadelphia) の長となったウォートン (Wharton, George M.) は、市のデザインと建設の基準を検討する委員会を作っていた。この委員会によって、スローンは学校の建築に関わることになった。^{*10}

ウォートンは、以前から校舎の問題に関心があり、公教育支持者国民会議 (The

*9 スローンは、間仕切りを使うことで都会の住居の問題点を解消しようとした。それは壁に収納可能な引き戸であったり、レールの上を滑って動く仕切りであったりした。そして、この仕切りにはできるだけガラスをはめ込むことにしていた。こうした方策を学校校舎にも応用したのが後述するフィラデルフィア・プランであった。

*10 スローンは、1851年から52年にかけて作成したデザインとフロア・プランを『モデル・アーキテクト』I、『同』IIとして出版した。この中に、デザイン17と43として学校校舎のデザインとフロア・プランも掲げているが、その説明にあたって、1851年の8月26日にフィラデルフィアで起こった校舎天井の崩落事故と、11月20日ニューヨークの学校でパニックになった子どもたちが押しかけたために強度不足の階段が崩れた事故について触れている [Sloan 1852a: 69-76, 1852b: 49]。

National Convention of the Friends of Public Education) のメンバーであった。この会議は、公立学校制度の拡大に伴う混乱と、校舎や設備についての全国的な標準がないことに警鐘を鳴らす教師たちが集まり、1849年10月17日から19日にかけてフィラデルフィアで第1回大会を開いた。31の州から委員の派遣があったとされるが、202人の委員のうち97人はフィラデルフィアからの出席者であり、フィラデルフィアはこの問題に関する中心地となっていった。その第2回大会も翌年8月28日から30日にかけてフィラデルフィアで開催され、バーナードの「学校建築」に関する報告が提出された [Cooledge 1964: 151, 鈴木 1999: 279]。この報告によって彼の「学校建築」は学校関係者に知られるところとなった。

スローンも、バーナードの報告を目にしたであろうが、彼のプランは、バーナードの掲げる例とは異なっていた。とはいえ、バーナードの提示する校舎に必要な条件、採光や換気など、は満たしており、1851年、さきの悲惨な火事で焼けた学校の再建に採用された。また、同年の第3回公教育支持者国民会議（オハイオ州クリーブランド、8月19日～22日）で、ウォートンが彼のプランについて報告し、この報告によって、スローンのプランは、広く知られるようになった [Cooledge 1864: 152, Cooledge, Jr. 1986: 27-31]。

4. スローンのフィラデルフィア・プラン

フィラデルフィア・プランの最大の特徴は、州の学校校舎建築仕様となった『ペンシルベニア州学校建築』 (*Pennsylvania School Architecture: A Manual of Directions and Plans for Grading, Locating, Constructing, Heating, Ventilating, and Furnishing Common School Houses*) 所収の、生徒を多数収容する都市の学校のプラン [図1] に見ることができる。それは、① 一つの階の大きなフロアを区切った四つの教室からなる基本単位 (modular unit) を組み合わせることで、② その区切りが、ガラス板のはまった格子状のサッシを羽目板状に組み合わせ、スライド式あるいは折りたたみ式の移動可能な間仕切りを使用して、行われること、であった。^{*11} 四つの

*11 この間仕切りは、梁からつり下げられるもので、他のプランの仕様によると、床上5フィートから2フィートの間を遮蔽することになっていた [Burrowes 1855: 97-101]。

また、ガラス窓状の間仕切りを使うとは限っておらず、何枚かの板で床から3フィート以上を遮蔽する間仕切りを提案したプランもあった [Burrowes 1855: 82-85]。

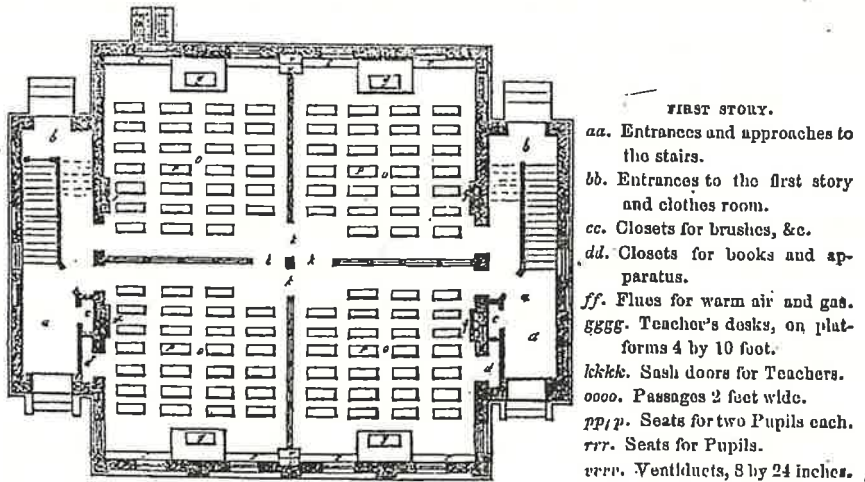


図1 4教室タイプのサッシ・ドアとベスティビュール [Burrowes 1855: 104]

教室は、互いに角を接するフロアの中央の、ガラス戸のはまったベスティビュール (vestibule 連廊) で行き来できるようになっていた。

この方式を使えば、学校校舎は、敷地の広さや建築費用に合わせて基本単位を水平方向に組み合わせたり、階を重ねたりして、建設することが出来た。これは、それぞれの建物に応じて新たに固有の細部を作る必要がないので、何校も繰り返して建てやすく、費用を抑える事ができた。

また、間仕切りによって、授業や集会などの必要に応じて教室の大きさを変えることができ、周囲からの独立性を保つこともできた [Burrowes 1855: 79-80]。そのうえ、ベスティビュールとの併用で、内廊下を作らなくて済み、内部の動線を減少させることができる。つまり、それだけ教室を広く取れるということであった。これらの点は、敷地面積や経費の点で制限が厳しかった、当時の学校校舎建設において、大いに利点となった。

さらに、板ガラスの入った間仕切りの使用は、暖房や採光、換気に関する問題の解決を容易にした。加えて、このような教室をそれぞれ出入口や階段にすぐつながるようにデザインすることで、火災に対する安全性を高めることができた。

そのほか、バステイビュールについても、4教室より多い教室に応用した例 [図2] や、スイング・ドアにする例 [図3] も多く提案されている [Burrowes 1855: 29-89, Sloan 1852b: 48-49]。ちなみに、スローンは、2教室の場合、4教室の基本単位

- FIRST FLOOR.**
- aabb.* Entrance lobbies to first floor.
 - cc.* Teachers' communication between class-rooms.
 - d.* Clothes rooms.
 - ff.* Flues for gas and warm air.
 - gggg.* Teachers' desks on platforms six by eight feet.
 - mm.* Entrances to stairs.
 - v.* Large ventilating shaft, to which no gas flues are attached.

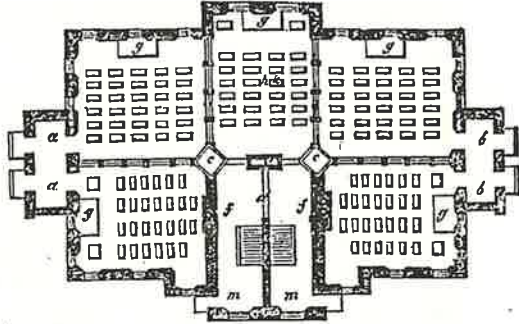
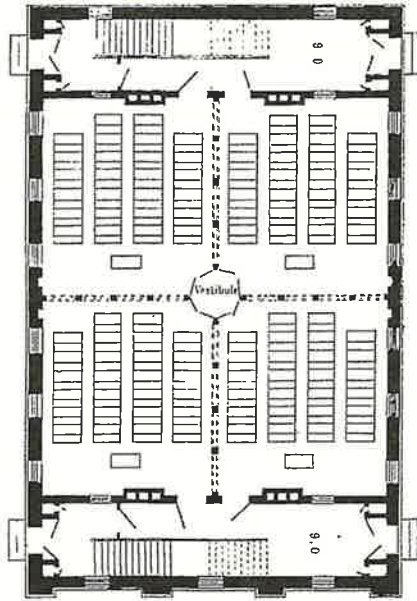


図2 パーティションとガラス戸のはまったバステイビュール [Burrowes 1855: 131]



FIRST STORY.

図3 スウィング・ドアのあるバステイビュール [Sloan 1852b: 48-49, Design 43, Pl.46]

を二分の一にしたものを提案した。その場合、[図4]のように、間仕切りの黒板近くの部分に通路を設けた例も示した。この場合、この通路にドアを付けることになっていた [Burrowes 1855: 70, 80, 83, 102]。*12

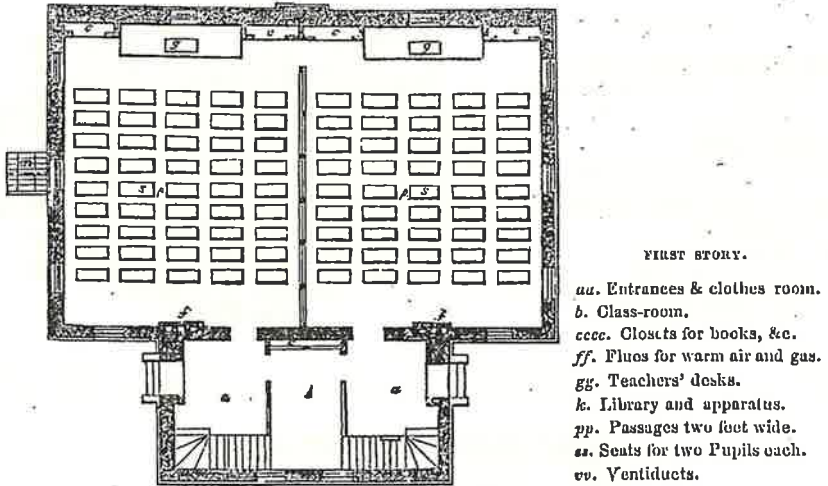


図4 間仕切りに通路を設けた2教室の例 [Burrowes 1855: 102]

このように、いずれの形式であれ、ベスティビュールを使用することがもたらす“学校管理” (school-keeping) 上の利点を持っていた。その利点とは、このベスティビュールの部分に立つことによって、一つの階の全教室を見渡すことができる点であった。この点は、『ペンシルベニア州学校建築』においても、言及されたし、この特徴は「ほぼフィラデルフィア特有」のものであると記されている [Burrowes 1855: 55-56, 79-80, 103-104, 130-131]。

*12 もちろん、スローンは全ての学校校舎について新奇なプランを提案したわけではなかった。田舎の、一人の教師による一教室で事足りる学校では、当時、一般的な形式と変わらないものを提案した。また、全ての教室の間を間仕切りで仕切る形式を提案したわけでもなかった。2教室の学校校舎でも石壁で仕切るプランも一例は提案した（ただし、このデザインの場合、主教室とそれに隣接する副教室の間に間仕切りを使用した） [Burrowes 1855: 97-101]。しかし、この例以外は、2教室の学校校舎には間仕切り使う形式を提案した [Burrowes 1855: 29-104]。

また、バーナード編集の『アメリカ教育雑誌』(*American Journal of Education* 以下、A.J.E.と略す)においても、主教師(Principal)が一つのフロアの全生徒と助教師(assistants)見渡すことができることと、主教師が生徒全体に話したいときには、いくつかの分教室(apartment)を一つの教室にして使えることが、その特長として挙げられている[A.J.E. 1863: 826]。

5. 建築家と教育行政家

ここまで、述べてきたようにフィラデルフィアに拠点を置き、次第に建築家としての評価を得ていったスローンは、学校校舎の建築デザインに関わるようになり、ペンシルベニア州の校舎建築仕様書となった『ペンシルベニア州学校建築』に多くプランを提案した。また、フィラデルフィア・プランと呼ばれた、そのユニークなデザインによる校舎は、実際に何校も建てられた。

しかし、奇妙なことにこの建築仕様書にはスローンの名前やスローンの事務所(Messrs. Sloan & Stewart)の名は見当たらない。同書の第3章、第4章、第5章に収められた、校舎のデザインとプランや仕様のほとんどは、間仕切りを使ったスローンのものである。既存の学校で、他の建築家の手になる数例については、通例、建築家の名前が記されているが、彼の名前は発見できない。

それは、この『ペンシルベニア州学校建築』という建築仕様書の出版に至る経緯が関係していると考えられる。1854年当時の州教育長ブラック(Black, C.A.)の依頼を受けて『ペンシルベニア州学校建築』を編集したのは、バロウズ(Burrowes, Thomas Henry 1805-1871)であった。さらに、ブラックは、編集だけでなく、教室アレンジメントや調度、備品、校庭などについての内容を扱う章を含めて、本文の執筆と編集・出版までをバロウズに任せた。彼は、「私より学校建築の問題を熟知している人の助言と助力を求める」旨、バロウズに書簡を送っている[Burrowes 1855: vii]。

バロウズは、1835年に州の州務長官(secretary)となり、職権により州教育長を1838年まで兼ねていた人物である。1834年制定のコモンスクール法のもと、法の実現に中心的役割を果たしたことで、公立学校制度成立の立役者、功労者と目されていた。ちなみに、バロウズは再び、州教育長(1860-1863)になっている。

そして、州教育長ブラックは、学校校舎のデザインや教室のプランについて、当時

評判のスローンの事務所に委嘱した。これは、自然なのことのように思われるが、実は、スローンとバロウズの関係は必ずしも良好ではなかったと考えられる。というのは、バロウズはバーナードの支持者であり、1853年に校舎建築の標準化のためにバーナードの『学校建築』の導入を図ったが、その立法化に失敗していたからであった。

結局、紆余曲折はあったが、その翌年制定のコモンスクール法により、学校校舎の設計者の任命権を得た州教育長が先に設計者を選定し、その後にバロウズに本文執筆、編集、出版までの作業を割り当てた。バロウズにすれば、スローンへの依頼は、「当時存在する、他のものより卓越した、価値ある業績とは全く異なるプランの採用」を意味した [A.J.E. 1856: 567, Cooledge, Jr. 1986: 48-49]。少なくとも、バロウズにとってこの仕事は心楽しいものではなかったと考えられる。

実際、バロウズは、スローンのプランの特長である間仕切りの効用について、数例でごくさりげなく触れただけであった [Burrowes 1855: 55, 79-80, 102-104, 130-31]。そのうえ、いくつかの例では、そのプランの欠点を挙げたり、反対意見を述べたりした [Burrowes 1855: 83, 104, 112, 131]。そして、スローンの案と自分の意見とに齟齬がある理由を、第5章 (“Construction of City School Houses”) の末尾の「注釈」 (“Explanatory Remarks”) に付記した。彼は、建築家のプランと「異なる調度のアレンジメントが提案されたことの説明については」、「編者のみが答え得る」として、以下のように述べた。

「[建築家の仕事である 筆者註] これらの図とプランは、しかるべき州当局によって既に選定されており、編者は自分の見解に合うように変えることは遠慮した。しかし、許されると考えられる二・三の提案をしたこと、そして正当と考えられる所見を追加したことに満足している」 [Burrowes 1855: 158]。*13

さらに、スローンの伝記を書いたクーリッジは、スローンが新しい州教育長カーティン (Curtin, Andrew Gregg 1817-1894) に好かれていなかったため、スローンを

*13 バロウズは、とくに希望して州教育長と交換した書簡を同書の冒頭に掲載した。そこには、こうした両者の見解の違いに対して、自らの立場や見解を正当化する狙いがあったとも考えられる。つまり、学校建築をよく知る人物に依頼したいと州教育長ブラックから依頼されたことを明らかにしておくためである。

見込んだ州教育長ブラックが交代するまで、バロウズが出版を遅らせたとの見解を示している [Cooledge, Jr. 1986: 49-50]。

そのうえ、バロウズだけではなく、バーナードもスローンのプランに対してできるだけ言及を避けたという。クーリッジは、バーナードが学校建築における地位を脅かされるのを恐れたためにスローンをおごなりに扱ったとしている [Cooledge, Jr. 1986: 48, 125]。また、スローンはバーナードの信奉者からも批判され続けたという [Cooledge, Jr. 1986: 29, 47]。

実際、『アメリカ教育雑誌』において、ペンシルベニアの公立学校プランを扱った記事 (“School Architecture: Plans of Public School Houses in Pennsylvania”) が掲載され、その中に紹介された6校のうち5校はスローンの手になるものであったが、彼の名はそのうちの1校に関して1度しか出されていない [A.J.E. 1863: 818-836]。*14

では、以上述べたような教育行政家と建築家の間にあった、教室プランに関する見解の「ズレ」は何によって生じたのであろうか。それは、個人的な感情によるものだけではなくと考えられる。建築家の「空間構成の企て」は、空間を構築物で構成することによる人間精神への影響力を行使することであった。その影響力については、教育実践家や教育行政家などの教育関係者による学校建築関係の文書にも触れられていたし、一定の期待感もあったと思われる [鈴木 1999: 280-286]。しかし、彼らの関心は詰まるところ、いかに授業を行い得るか、当時の表現で言えば、“学校維持” (school-keeping) にあり、そのために教育空間をいかに整序するかが重要課題であった。

つまり、教育関係者からすれば「教育空間の整序」に「空間構成の企て」を活用する所に、興味・関心と利得があったのである。「学校建築」^{スクール・アーキテクチャー}の分野は、建築家と教育関係者が出会ったところに成立したのであるが、同時に、「教育空間の整序」と「空間構成

*14 これに対してスローンも“名前隠し”をしていた。彼は、『モデル・アーキテクチャー』Iにおいて校舎のデザインとフロア・プランを提示するに先立って、学校校舎の悲惨さを訴える手段の一つとして、教育行政家の報告書を引用した。その引用とは、マサチューセッツ州教育長マン (Mann, Horace 1796-1859) の1846年の報告と、「コネティカット州初代教育長」の1838-39年の年報からのものであったが、「公立学校の父」と言われるマンの名前は出しながら、同じく公立学校普及に尽力した初代教育長バーナードの名前は出していない [Sloan 1852a: 79]。

の企て」の間にある、意図や狙いのズレが埋められたわけでもなかったということである。

当時、教育実践を支える精緻な教育哲学や教育方法の理論が、まだ発達している時期ではなかった。柔軟に教室の大きさを変えられるスローンの間仕切りとモジュラー・システムを生かすだけの理論も方法もなかった。スローンが敷地の制限や費用の制限から考え出したプランも、採光や換気等の利点を意識していたとはいえ、当時の教育実践家の“学校維持”方法をどれだけ考慮したものであったか疑問である。

バーナードの『学校建築』やバロウズ編集の『ペンシルベニア州学校建築』には、机の配置などに加えて、机や椅子の形や大きさから調度や備品に至るまで事細かに記されている。こうした記述は、実際の教室で行われる実践を想定しているからである。スローンのプランへの批判の原因として、それまでの授業方法を採ろうとする当時の教師たちに、スローンのプランが歓迎されなかったことが考えられる [Cooledge, Jr. 1986: 31]。また、学校には、講堂のような、他の教室とは違う、固定的な広い部屋が必要だと考えられたことも原因の一つだとも言われる [Culter, III 1989: 26]。

教育実践を支える教育哲学や教育方法の理論が精緻化されていき、それらを踏まえて校舎が建築されるようになるのは、20世紀に入ってからのことであった。そのような校舎は、進歩主義教育の理論に基づいて建てられたクロー・アイランド・スクール (Crow Island School) の、L型教室からなる校舎の出現 (1940-1941年設立) まで待たなければならない。

文献一覧

奥出直人 1992『アメリカンホームの文化史』住まいの図書館出版局

鈴木清稔 1999「学校建築の誕生——空間構成の企てと教育空間の整序」 田中智志、北野秋男、鈴木清稔『ペダゴジーの誕生—アメリカにおける教育の言説とテクノロジー』多賀出版 277-309

関川勝一、新川亮馬、馬渡龍 2001「『学校通論』(原著 *School Economy*) が明治初期の「学校建築法」に与えた影響に関する考察」『日本建築学会計画系論文集』527: 137-142

田中智志 1997「教育する建築空間の誕生」『駒澤大学文学部紀要』55: 1-28

田中智志 1999「教育する空間の誕生——デミウルゴスの衰微」 田中智志、北野秋男、鈴木清稔『ペダゴジーの誕生—アメリカにおける教育の言説とテクノロジー』多賀出版 221-248

- 丹下敏明 1997『建築家人名辞典——西洋歴史建築篇』三公社
- Barnard, Henry. 1970 (1848) *School Architecture; or Contributions to the Improvement of School-houses in the United States*, 2nd edn, in *Henry Barnard's School Architecture*. New York:Teachers College Press.
- Barbard, Henry. 1849 *School Architecture; or Contributions to the Improvement of School-houses in the United States*. 2nd edn, New York:A. S. Barnes & Co.
- Barbard, Henry, ed. 1863 *American Journal of Education* XIII.
- Bushong, William B. 2009 "Samuel Sloan (1815-1884)," in *North Carolina Architects & Builders A Bibliographical Dictionary*. North Carolina State University Library.
<http://ncarchitects.lib.ncsu.edu/people/P000004> 2017年7月1日閲覧
- Burrowes, Thomas Henry. 1855 *Pennsylvania School Architecture: a Manual of Direction and Plans for Grading, Locating, Constructing, Heating, Ventilating, and Furnishing Common School Houses*. Hurrisburg:A. Boid Hamilton.
- Clark, Cliford Edward, Jr. 1986 *The American Family Home, 1800-1960*. Chapel Hill, NC:University of North Carolina Press.
- Coolidge, Harold N. 1964 "Samuel Sloan and the "Philadelphia Plan"," in *Journal of the Society of Architectural Historians*. Vol.23 No.3: 151-154.
- Coolidge, Harold N. Jr. 1986 *Samuel Sloan: Architect of Philadelphia 1815-1884*. Philadelphia: University of Pennsylvania Press.
- Cutler, William W. III 1989 "Cathedral of Culture: The Schoolhouse in American Education Thought and Practice since 1820," in *History of Education Quarterly* 29 (1) :1-40.
- Eastman, W. Dean. 2013 "The Greek Revival Architecture of the American One Room School as a Symbolic Reflection of Our Democratic National Ideas."
<http://primaryresearch.org/the-greek-revival-architecture-of-the-american-one-room-school-as-a-symbolic-reflection-of-our-democratic-national-ideals/>2017年7月1日閲覧
- Fues, Claude Moor. 1928 *Men of Andover: Bibliographical Sketches in Commemoration of the 150th Anniversary of Phillips Academy*. New Haven:Yale University Press.
- Gebhard, David. and Nevins, Deborah. 1977 *200 Years of American Architectural Drawing*. New York: Whitney Library of Design for the Architectural League of New York and the American Federation of Arts = 谷川正己・増山博文 1980『図面で見るアメリカの建築家』鹿島出版会
- Jenkins, Jessica D. 2017 "Henry Barnard Advances State and National Education Initiatives," Connecticut History Organization.
<https://connecticuthistory.org/henry-barnard-advances-state-and-national-education-initiatives/>2017年7月1日閲覧
- Kostof, Spiro. 1985 *A History of Architecture: Setting and Rituals*. New York: Oxford University Press. = 鈴木博之監訳『建築全史』住まいの図書館出版局
- McClintok, Jean and Robert. 1970 "Architecture and Pedagogy," in *Henry Barnard's School Architecture*. New York:Teachers College Press, pp. 1-28.

- Moss, Roger W. and Tatman, Sandra L. 2017 "Samuel Sloan (1815-1884)," in Philadelphia Architects and Buildings.
https://www.philadelphiabuildings.org/pab/app/ar_display.cfm?ArchitectId=A1287
2017年7月1日閲覧
- Lackney, Jeffery A. 2015 "History of the Schoolhouse in the USA," in *Schools for the Future, Design Proposals from American Architectural Psychology*. Walden, Rotaut ed., Springer Fachmedien Wiesbaden. Wiesbaden: FRG pp.23-40.
- Place, Charle A. 1968 *Charls Bulfinch: Architecture and Citizen*. New York: Da Carpo Press.
- Sloan, Samuel. 1852a *The Model Architect. A Series of Original Designs for Cottages, Villas, Suburban Residences, etc.* vol. I. Philadelphia : E. S. Jones & Co.
- Sloan, Samuel. 1852b *The Model Architect. A series of Original Designs for Cottages, Villas, Suburban Residences, etc.* vol. II. Philadelphia:E. S. Jones & Co.
- Splain, Shelby Weaver. 2015 "Making the Grade: the Architecture of Philadelphia's Public Schools, Part 1," in *Pennsylvania Historic Preservation*. Blog of the Pennsylvania Historic Preservation Office.
<https://pahistoricpreservation.com/making-grade-architecture-philadelphias-public-schools-part-1/>2017年7月1日閲覧
- Wickersham, James Pyle. 1969 (1866) *A History of Education in Pennsylvania*. New York: Arno Press.
- Wickersham, James Pyle. 1867 *School Economy. A Treatise on the Preparation, Organization, Employments, Government, and Architecture of Schools*. Philadelphia:J.B. Lippincott & Co.